Tomy jr.の祝中日優勝観戦記

私はこれまでに胴上げ試合を見ようと 2 度チャレンジしたが叶わなかった。最初は 1975 年（昭和 50 年）のカープ、「巨人の本拠地だからガラガラだろう」と後楽園球場まで行ったが予想外の満員で球場に入れず。2 度目は 1988 年（昭和 63 年）、伝説のロッテ-近鉄のダブルヘッダー、新婚の家内と車で川崎球場まで行ったものの、やはり満員で入れず。

そして今年の 10 月 3 日、一週間後に当たる 10 日 の巨人-中日戦のチケットを購入。この時点で中日の優勝マジックは 7。私のヨミでは 10 日までの 12 試合（中日 7 試合、阪神 5 試合）でマジックが 6 個減り、この巨人戦が優勝決定の胴上げ試合に！というものである。そしてなんと計算通り、9 日にヤクルトに勝った中日はマジック 1 でこの日を迎えたのだ。

会社を出て巨人ファンの同僚とコンビニで弁当を買い球場に。内野自由席（3 階席）はまだ空席も若干あり。試合は 5 回表で中日が 3 対 1 とリード。エース川上がこのまま 8 回まで抑えれば 9 回を岩瀬が締めて夜 9 時前には胴上げか、という戦況だった。ところが、さすがに巨人も意地を見せ、8 回裏に高橋、小久保の連続ホームランでアッという間に同点。

試合はこのまま延長に突入。延長 11 回表に福留、ウッズが連続ヒットでノーアウト 1,2 塁。ここで左足の負傷で殆ど走れないウッズにはもう打席が回ってこない可能性大、併殺を考えれば当然代走だと思いきや、何故か落合は動かず。結局、この回は点が入らずに 11 回裏から抑えの切り札、岩瀬を投入して遂に延長最終回の 12 回に突入する。

引分ではマジックが減らない中日、この回に点が入らなければ胴上げは無いという 12 回表に先頭の谷繁がヒットで出塁。しかし、続くピッチャー岩瀬はバントに失敗し結局三振。何故に岩瀬を 7 番あたりに入れなかったのか、これも落合采配の不思議だが、このあと荒木、井端と連続ヒットで満塁として福留が決勝タイムリーを放つと球場の興奮は最高潮に。

「これで胴上げが見られる！」半ば諦めかけていた胴上げが一挙に現実のものとなった歓びを球場に来ている中日ファンが抑えきれるはずもない。しかし 1 点ではまだ不安も残る。できればもう 1 点欲しいと欲が出た時、打席に立つのはウッズではないか。先ほど代走を出さなかったのがここで生きたか、と思った瞬間、打球がレフトスタンドに…満塁弾だ！

（谷繁がヒットで出塁）　（岩瀬は三振）　（荒木ヒットで 1,2 塁）　（井端ヒットで満塁）　（福留がタイムリー）

得点は 8 対 3。ラジオ中継によれば、このホームランで落合監督はベンチの中で号泣したらしい。続く森野も 2 塁打を打ったところで巨人もたまらずピッチャー高橋に交代を告げると、球場の観客から自然発生的にウェーブが始まる。結局、続く奈良原も 6 連打となるタイムリーを打ち 9 対 3 となった。あとアウト 3 つで、確実に胴上げが見られるぞ。

12 回裏、高橋がヒットを放つも小久保、阿部とフライアウトで、あと 1 人。最後のバッター、木村拓也が 2 塁ベース付近にゴロを打つと井端が自らベースを踏んで試合終了！アッという間に 3 塁側ベンチから選手達が 2 塁に駆け寄る。バックスクリーンには「優勝おめでとう中日ドラゴンズ」の大文字が踊り、選手群の真ん中で落合監督が 4 回宙に浮いた！

ああ、夢にまで見た「ナマ胴上げ」。感無量である。後楽園球場から東京ドームへと変遷はあれども、思えばうなだれて水道橋駅を後にした 1975 年から苦節 31 年目にしてようやくあの日の夢が目の前で実現したことになる。いやあ長生きしてよかった。（2006.10.11）

●当然の事ですが、翌日はスポーツ新聞全紙を買い漁りました●